

あなたも **30秒** で情報通! 活用法いろいろ **コミュニケーションペーパー**



語呂合わせと 語呂合わせカレンダー

「4649」、「39」、この2つの数字なんと読みます。そうです。「4649」は“よろしく”。
「39」は“サンキュー”で感謝、ありがとう。これは数字の読み方を組み合わせる語呂合わせです。数字の読み方にはどんなバリエーションがあるでしょうか？

数字	読み方	数字	読み方
1	いち、いつ、ひ、と、ワン	6	ろく、むつ、シックス
2	に、ふ、ツー	7	しち、なな、セブン
3	さん、み、スリー	8	はち、や、ハチ、エイト
4	よん、し、よ、フォー	9	きゅう、く、グー、ナイン
5	こ、ご(ご)、ファイブ	10	とう、とわ、じゅう、テン

この数字を組み合わせた記念日カレンダーを探してみました。多少無理があるかもしれませんが、まあ、響きが似ていればOKというゆるさで勘弁、勘弁。

月日	記念日名	語呂合わせ数字
1月6日	幸せを願う日	いつ(1)までも睦(6)まじくの語呂合わせ
1月15日	いい母の日	いち(1)ご(5)の語呂合わせ
2月6日	愛情の日	ふたり(2)は無(6)敵の語呂合わせ
2月29日	ニンニクの日	にん(2)にく(29)の語呂合わせ
3月3日	耳の日	み(3)み(3)の語呂合わせ
3月9日	感謝の日	サン(3)キュー(9)の語呂合わせ
4月8日	出発の日	しゅ(4)ぱつ(8)の語呂合わせ
4月22日	良い夫婦の日	よい(4)ふうふ(22)の語呂合わせ
5月23日	恋文の日	恋(5)の手紙(ふみ)(23)で愛を伝えるの語呂合わせ
6月6日	梅の日	う(6)め(6)の語呂合わせ
6月11日	夫婦円満の日	睦(6)まじくいつも一緒(1)
7月1日	内科の日	な(7)い(1)科の語呂合わせ
7月10日	納豆の日	なっ(7)とう(10)の語呂合わせ
7月16日	虹の日	なないろ(7)(16)の語呂合わせ
7月28日	葉っ葉の日	な(7)(2)ぱ(8)の語呂合わせ
9月9日	救急の日	きゅう(9)きゅう(9)の語呂合わせ
9月29日	福の日	来る(9)福(29)の語呂合わせ
10月2日	永遠の日	10(とわ)2(に)の語呂合わせ
10月10日	目の愛護デー	ひとみ(10)ひとみ(10)の語呂合わせ
10月22日	永遠の夫婦の日	永遠(10)(2)夫婦(22)の語呂合わせ



海開きと山開き 歴史的背景の違いなどなど



「海開き」と「山開き」はどう違うのでしょうか？ 海と山の背景によってその性格・目的が違います。

海開きは海水浴シーズンの始まりを告げる行事で、海水浴の始まりと海の安全祈願を目的としたイベントとして広く知られています。歴史的背景は近代以降に始まった行事です。海開きの歴史的背景を紹介します。

■海開きとは？

意味：海水浴場などの海の利用が解禁される日。

目的：海水浴シーズンの開始、海水浴の安全祈願と海難事故防止。

時期：日本では多くの地域で6月下旬～7月初旬に実施されます。

■歴史的背景

1. 古代～江戸時代：海水浴は一般的行事ではありませんでした。

日本では、古代から中世・江戸時代にかけて、海は漁業や航海の場であり、泳ぐために入る場所ではありませんでした。海に入る行為は、漁師や海女(あま)など特定の職業の人職業行為に限られており、庶民が娯楽として海に入ることはありませんでした。海は神聖なもの、危険な場所とされ、忌み嫌われる場合もありました。

2. 明治時代：海水浴が医療・保養として広がる

海開きのルーツは明治時代にあります。1870年代～1880年代ごろから、海水浴が「冷水浴(れいすいよく)」という健康・療養目的の治療法として推奨されました。「海水浴は体を鍛え、結核などに効果がある」とされました。医師や知識人、上流階級の人々の間で海水浴が広まり、夏の健康法・保養地として人気が出始めたのです。

3. 大正～現代：海水浴の大衆化と海開きの定着

鉄道網の発展とともに、海水浴が庶民のレジャーとして全国に広がります。夏になると鉄道会社が「臨時列車」「海水浴号」などを運行し、都市部から人が海に押し寄せるようになります。この頃から各地で「海開き」という行事が行われるようになりました。このように「海開き」は比較的新しい行事として定着し、夏のレジャーとしての海水浴が完全に大衆化するようになって「海開き式典」が行われるようになったのです。



■ 山開きとは？

意味：神聖な山に特定の時期、特定の人（修験者＝山伏）だけ立ち入りを許される日。

目的：修験者（山伏）の修行期間の開始が「山開き」として定着。

時期：日本では多くの地域で6月下旬～7月初旬に実施されます。

■ 山開きの歴史的背景

山開きは、日本における山岳信仰や修験道（しゅげんどう）の発展と深く関わっています。山は神聖視され、人がむやみに立ち入ることを禁じられていました。

1. 古代：山は神の住む場所

日本では古代から、山は神々が宿る神聖な場所でした。例えば、奈良の三輪山、富士山、白山、立山などは山そのものが御神体とされ、人が勝手に入ることを禁じられていました。山開きは、その神聖な山に特定の時期だけ立ち入りを許される日なのです。

2. 中世：修験道と山岳信仰の発展

中世になると、山での修行を通じて悟りを得る修験道が広まります。修験者（山伏）は、春から秋にかけて山に入り修行を行い、冬は下山して布教などを行っていました。その修行期間の開始が「山開き」となり、信仰的・宗教的な行事として定着していきました。

3. 近世（江戸時代）：庶民登山と参詣の広がり

江戸時代には、富士講や白山信仰などの庶民信仰が広まり、一般の人々も巡礼や登山を行うようになります。例えば、富士山は「富士講」という信仰集団によって登山が奨励され、山開きの日には多くの信者が登りました。

4. 近代以降：観光・レジャー登山と制度化

明治時代以降、西洋の登山文化が日本にも伝わり、登山がスポーツ・レジャーとして発展していきます。同時に、気象や安全への配慮から、登山に適した時期に合わせて山開きの日が設定されるようになりました。山小屋の営業開始や登山道の整備、安全祈願の神事などが観光行事としての山開きの要素に加わっていきます。「山開きの時期」は、山ごとに気候や地形、登山道の整備状況、信仰的な背景などによって異なります。一般的には6月下旬～7月初旬が多く、山によっては8月や春の時期に行うこともあります。

■ 海開きと山開きの違い ■		
項目	山開き口	海開き
起源	宗教・信仰（山岳信仰・修験道）	近代医学（保養・健康目的）
歴史	古代～中世に起源	明治時代に始まる
目的	宗教儀式、修行解禁	健康推進、観光・レジャー
代表行事	富士山、立山などの開山神事	海水浴場の神事・初泳ぎなど



海と山の事故と防止対策

■海の事故とその防止対策

●事故の種類

・溺水事故

遊泳中の離岸流に流される、急な深みに足を取られる、高波にさらわれる、ライフジャケットの未着用、遊泳禁止区域への侵入など。

・船の転覆、衝突

操船ミス、悪天候での無理な航行、定員オーバー、船舶の整備不良、ライフジャケットの未着用など。



・釣り中の事故

足場の悪い場所での転倒・転落、高波にさらわれる、ライフジャケットの未着用など。

●防止対策

・事前の情報収集と計画

出かける前だけでなく、前日までの天候や、現地の波の高さ、風の強さ、潮汐情報を確認する。遊泳禁止区域や危険な場所（離岸流発生箇所、急深な場所、岩場など）を事前に確認し、絶対に近づかない。

●装備と準備：

遊泳時、マリンレジャー、釣りなど、水辺での活動では必ずライフジャケットを着用する。特に子供には、身体に合ったサイズのものを正しく着用する。

防水パックに入れた携帯電話を携行し、緊急時に備える連絡手段の確保：。位置情報をONにしておく。



■山の事故とその防止対策

●事故の種類

・道迷い事故

地図やコンパスの読解力不足、GPS機器の不慣れ、天候悪化による視界不良、標識の見落とし、計画性のない行動、油断など。

・滑落・転倒・転落

足場の悪い場所での不注意、疲労、不適切な靴、悪天候で路面を滑るなど。

・疲労・病気

無理な計画、体調不良、睡眠不足、水分・栄養補給不足、熱中症、低体温症など。

●防止対策

・事前の情報収集と計画

登山計画の立案：自身の体力、経験、技術に見合った山やコースを選ぶ。時間に余裕を持った無理のないスケジュールを立てる。

登山する山の地形、登山道の状況、過去の事故情報、山小屋や避難場所の有無と営業状況を調べるなどの情報収集。

●装備と準備

整備された滑りにくい登山靴を選ぶ。雨具・防寒具：天候急変に備えて必ず携行する。

紙の地図とコンパスを携行し、使い方を習得しておく。GPS機能付きの携帯電話や登山アプリも併用する。

十分な量の食料と水を携行する。非常食も準備する。

その他に救急用品、携帯電話、モバイルバッテリー、防寒具、簡易的なテントなど。